

特定非営利活動法人
市岡国際教育協会 市岡日本語教室
● 場所 港区民センター
● 日時 毎週金曜日午後7時から8時半
● ボランティア、学習者、募集中
● 見学随時、予約不要
e-mail: Ichioka_nihongo@hotmail.com

IchioKa

2010/7
第50号

発行人/市岡国際教育協会理事長 吉田徳夫 /編集/広報係
大阪市港区市岡元町 2-12-12 TEL: 080-3846-2581

現在、29カ国の学習者と交流しています。

市岡日本語教室は、NPO 市岡国際教育協会と港区コミュニティ協会が共催し、NPO 市岡国際教育協会が運営しています。

日本語教室は港区民センターで毎週金曜日の夜に開催しています。

URL: <http://ichioka-nihongo.org/>

たなばたまつり

さまざまな想いを
込めて...



浴衣の感想

ジヤヤさん (インドネシア)

インドネシアから園田学園女子大学で交換留学として日本で生活している留学生のジヤヤさんである。毎週金曜日に弁天町で外国人のための日本語を勉強に行っている場所で今月の3日に七夕祭りを行った。そのとき、浴衣を着た。初めて日本の祭りに浴衣を着て、楽しかった。私だけでなく、ほかの国から来た学生のみならず浴衣を着たのである。初めて日本の祭りに浴衣を着た感想は楽しく、実際に七夕祭りの雰囲気を感じる事ができて、うれしかった。当初は恥ずかしかったのである。なぜかという、浴衣を着られてくれてよかったです。浴衣を着るとき、歩き方を分からないからである。だから、ゆっくり歩き、この前私に教えてくれた新舞踊の先生の歩き方のように歩いた。下駄を履いて歩いたことないから、日本人の前で歩き間違ったら、少し心配した。だが、みんなに「似合ってます。かわいい」とほめられて、うれしかったのである。浴衣を着て、下駄を履き、願い事を書いたり、折り紙を折ったりするのはもっと楽しくなったと思う。いきなりインタビューされて、びっくりしたのである。準備がしてないから、どうするか分からなかった。だが、聞かれたとき、少し緊張したが、自然に回答した。浴衣の感想について聞かれた。初めて日本の祭りに浴衣を着るのが楽しいと思う。それに、私のいい経験になると思う。



七夕まつり

七月二日金曜日、市岡日本語教室の七夕まつりが催されました。笹飾りの作製と浴衣体験が恒例となっているイベントですが、学習会場が港区民センターへと移転した今年は一味違います。立派な舞台を備えた一階ホールをお借りし、同じく区民センターで活動しておられる日本民謡「隆勢会」の皆さんにもご参加いただくという、盛大なものになりました。

会場にはたくさんのお笹と色とりどりの短冊、折り紙。隆勢会の小さな女の子たちが、愛らしい浴衣姿で七夕気分を盛り上げてくれます。

市岡学習者も負けていません。私物の浴衣持参の日本通も、この日初めて着たという初心者も、皆不思議と似合っています。ケーブルテレビのカメラさんを前に、緊張気味ながらも堂々としたもの。思い思いの決めポーズで記念撮影に夢中でした。着付けに汗を流してくださった方や、大切な浴衣・帯を快く貸し出してくださった方。学習者さん達の楽しそうな笑顔が、ボランティアにとって何よりのご褒美ですね。

願いごとを書く横顔は真剣そのものです。「日本語がうまくなりたい」、「能力試験一級合格」に「日中友好」、「世界平和」。さすが国際人、と眺めていると、笹のてっぺんで燦然と輝く金色の短冊には「金持ちになる!」。学習者、ボランティア共にこれが一番多く、やはり万国共通の願いです。

民謡の他にも、踊りや和楽器の演奏を披露してくださった隆勢会の皆さん。最後は三味線で伴奏していただき、全員で「たなばたさま」を大合唱。大成功のうちに七夕まつりはお開きとなりました。

みんなの願いが天まで届きますように...。みんな金持ちになって、市岡に寄付が集まりますように...。

(5班 阿佐さん)

ワンワールドフェスティバル

2月5日(土) 6日(日) 大阪国際交流センター

今年も市岡日本語教室 (NPO 法人市岡国際教育協会) としてワンワールドフェスティバルに屋台出店で参加してきました! 市岡日本語教室にボランティアとして関わって丸2年、教室での普段の学習以外でも様々な企画、運営をされる事務局、イベント係の皆さんの少しでもお役にたてればと今回の屋台出店のお手伝いを自ら申し出たのですが、事前の準備から当日まで初めての経験づくしで本当に大変でした...。事務局の方々には頭が下がります。

準備段階だけでわたしの心は結構へとへとになっていたのですが(笑)、当日はやっぱりわくわくせずにはいられます! 朝屋台準備をしている時に激しく雪が降り、2月の冬の寒さの下、野外での屋台出店の大変さをしみじみと感じる瞬間などもありましたが、段々と色んな国の人たちが屋台とともに顔を見せ始め、それはもう華やかで楽しい! 屋台の出る通りは国旗がたくさん並んだおもちや箱みたいで、まさにワンワールドを謳うにふさわしいのです。色んな国の人とお顔だけでも触れ合えるフェスティバル、本当にすてきな催しだと感じずにはいられない...。とは言ってられないくらい開店準備は大忙しでした(笑)。

市岡日本語教室は今回も前年とおなじく、韓国料理での出店。今回初メニューの「トック (떡볶이)」をプラスして「チヂミ (치즈이)」 「トックポギ (떡볶이)」 の3品に「柚子茶 (유자차)」でほっこりと。寒い冬の日には辛い食べ物体がぽかぽかにしてくれます。スープであるトックを素早く美味しい状態でお客様に提供するの個人的にはとてもむずかしく感じたのですが、屋台なのでそれは「愛嬌」。多くの方がこのワンワールドフェスティバルを訪れる醍醐味は世界の色々な料理を食べべられる屋台でもあり、韓国料理を食べたことがある人もない人にも味わって頂いて、日本語教室の存在がさらに多くの方に認知されるように、みんなで一生懸命ひと



つことを協力してすることに意義があるのだと感じ、改めて良い勉強になりました。

ワンワールドフェスティバルに会場される方はいろんな国の方がいらっしやるのですが多くはもちろんな日本の方で、そんな中でも折外国人の方が買って行って下さるとなぜだかさらに嬉しいんですよ! なぜでしょうか(笑)。

初めて屋台のお手伝いをし、大変だ!と思うこと多々ありましたが、それもいい思い出です。大城さんのサポート(というより私が大城さんのお手伝いにしかお役に立てず)は強力で(笑)、当日含めみんなで作り上げ参加したフェスティバルですが、本当に心からお礼を申し上げます。ありがとうございます!

さて来年のワンワールドフェスティバルでもたくさんさんのハプニング、出会い、ほっこりする瞬間、たくさんあるといいなと思います。

(5班 朴さん)